シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン実習Ⅱ		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	2
使用教材	30時間でマスターWORD 30時間でマスターEXCEL パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次に学んだWORD、EXCELの基礎を踏まえて、さらにいろいろな機能を応用的に使用できるようにする。また、社会にでてでも役立つ作成・解決できる力を養う。一般企業で必要とされるプレゼンテーションに必要なPowerPointの技能も身に付ける。				
到達目標	見本がなくても一人で、作成できるようにする。 高度なパソコン操作技能（パソコン検定準1級レベル）の習得。 パワーポイント技能の習得。				
評価基準	(前期) テスト60%、課題30%、授業態度10% (後期) テスト40%、パワーポイント課題50%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格	パソコン技能検定 3級、2級、準1級				
関連科目	パソコン実習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	榮田 隼	実務経験	○		
実務内容	町田商工会議所のパソコン教室でパソコンインストラクターとして2年勤務した実務経験を元に、WORD、EXCELを応用的に使用できるように、また一般企業で必要とされるプレゼンテーションに必要なPowerPointの技能を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	操作の確認①	入力練習（10分間） 1年生で修得したことの確認（WORDの2級レベル・図形等）
2	操作の確認②	入力練習（10分間） 1年生で修得したことの確認（WORDの2級レベル・段組み等）
3	操作の確認③	入力練習（10分間） 1年生で修得したことの確認（EXCELの2級レベル・ROUND・RANK・IF等）
4	操作の確認④	入力練習（10分間） 1年生で修得したことの確認（EXCELの2級レベル・VLOOKUP・HLOOKUP・INDEX）
5	操作の確認⑤	入力練習（10分間） 1年生で修得したことの確認（EXCELの2級レベル・複合グラフ等）
6	問題実践①	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説

7	問題実践②	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説
8	問題実践③	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説
9	データベース①	入力練習（10分間） 並べ替え、検索と抽出等
10	データベース②	入力練習（10分間） テーブル、ピボットテーブルによるデータの集計
11	データベース関数	入力練習（10分間） 関数（DSUM・DAVERAGE・DMAX・DMIN・DCOUNT・DCOUNTA）
12	3D集計とさまざまな機能	入力練習（10分間） 3D集計等
13	最寄り駅から学校までの地図を作成①	入力練習（10分間） 図形や画像などのオブジェクトを組み合わせて課題作成①
14	最寄り駅から学校までの地図を作成②	入力練習（10分間） 図形や画像などのオブジェクトを組み合わせて課題作成②
15	前期復習・まとめ	入力練習（10分間） 前期に行った内容の復習（関数など）
16	プレゼンテーションの基本 PowerPointの基本・操作	入力練習（10分間） プレゼンテーションについて 基本入力、デザイン等
17	PowerPointの基本・操作	入力練習（10分間） スライドへのオブジェクトの挿入（図形・画像・SmartArt等）
18	PowerPointの基本・操作	入力練習（10分間） 画面切り替え・アニメーション・スライドショー等
19	PowerPoint課題作成①	入力練習（10分間） 課題作成
20	PowerPoint課題作成②	入力練習（10分間） 課題作成
21	PowerPoint発表	作成した課題を発表させる
22	EXCELのいろいろな機能①	入力練習（10分間） 関数（COUNTIF・SUMIF・AVERAGEIF等）、表示形式（日付・ユーザー定義等）
23	EXCELのいろいろな機能②	入力練習（10分間） 関数（LEN・LEFT・RIGHT等）、WORDへのEXCELの埋め込み
24	EXCELのいろいろな機能③	入力練習（10分間） 関数（LARGE・SMALL・MID・VALUE等）、データのリンク埋め込み
25	はがき作成・印刷	入力練習（10分間） 年賀状の作成・印刷
26	EXCELでの文書作成①	入力練習（10分間） 写真、表、関数を使用した旅行計画書を作成する
27	EXCELでの文書作成②	入力練習（10分間） 写真、表、関数を使用した旅行計画書を作成する
28	カレンダーづくり①	これまでに学んだ機能を使い、課題の作成 各自でデザインを考え、形にする
29	カレンダーづくり②	これまでに学んだ機能を使い、課題の作成 各自でデザインを考え、形にする
30	総復習・まとめ	1年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション応用		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション応用		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	1
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や実習はもちろん、普段の学校生活におけるコミュニケーション能力の向上 ・自己の意思・考えを分かり易く相手に伝える能力、相手の話を聞き主張できる能力を身に付ける ・学生が業界・職種について自ら考え発表する機会を設けることで、業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージを明確化する 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の意思・考えを分かり易く話すことができるようになる ・業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージが明確になっている 				
評価基準	発表：70% 提出物：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	新妻 卓士	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スピーチとは	・スピーチについての基礎知識/理想のスピーチ ・スピーチ対策
2	スピーチ対策	・あがりとは/緊張を取り払うための方法 ・スピーチ実践
3	就職指導①	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
4	就職指導②	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
5	就職指導③	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
6	就職指導④	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
7	就職指導⑤	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
8	就職指導⑥	企業研究・模擬面接・グループディスカッション

9	就職指導⑦	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
10	就職指導⑧	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
11	就職指導⑨	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
12	就職指導⑩	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
13	業界/業種/仕事内容研究① ～グループワーク～	業界/業種/仕事内容についてグループで調べまとめる
14	業界/業種/仕事内容研究② ～グループワーク～	業界/業種/仕事内容についてグループで調べまとめる
15	業界/業種/仕事内容研究③ ～グループ発表～	グループ発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	3	135
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・登録販売者資格取得にあたり必要な実務経験を積む。 ・実習を通して、登録販売者に必要な知識や技術を身に着ける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に働く現場の店長やその他スタッフにとって、一緒に働きたいと求められる働きをする。 ・販売員としての接客対応スキルを活かし、お客様対応がスムーズに出来る。 ・一般用医薬品の知識を他者に説明する。 				
評価基準	企業側評価：80%(事項別評価75点、総合評価5点)、学校側評価(レポート)20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	就職対策Ⅱ、研究発表				
備考	原則、現場での実習形式にて実施する。				
担当教員	新妻 卓士	実務経験			
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	TAKEOFF		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 登録販売者試験に向けて、準備事項を知る。 就職活動の準備や社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 現場をイメージできる実習への向き合い方を理解する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 登録販売者試験を受験するにあたって、手続き方法を述べることができる。 登録販売者試験に合格するために、計画を立てることができる。 社会人として持つべきスキル・考え方を述べるができる。 実習を通じて、自身の課題（今後の取り組み）の発見がある。 				
評価基準	発表点40%、提出物30%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> 出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	インターンシップ実習Ⅱ、未来デザインプログラム、プレゼンテーション実践				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	北村綾香	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいや目的をシラバスより確認する。 実習報告書・実務経験実績表の記入・提出方法を再度確認する。
2	就職活動実践①	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動状況の確認をする。 就職活動の具体的な計画を立てる。
3	就職活動実践②	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動状況の確認をする。 就職活動の具体的な計画を立てる。
4	インターンシップ実習①	実習の目的を再確認する。
5	インターンシップ実習②	1年次の実習の振り返りを行い、今後の課題を発見する。
6	資格取得に向けての準備①	登録販売者試験合格に向けての計画を立てる。

7	資格取得に向けての準備②	登録販売者試験合格に向けての計画を立てる。
8	資格取得に向けての準備③	受験の申し込みについて確認をする。
9	資格取得に向けての準備④	登録販売者試験模試の振り返りを行う。
10	社会人としての心構え①	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
11	社会人としての心構え②	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
12	社会人としての心構え③	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
13	社会人としての心構え④	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
14	社会人としての心構え⑤	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、就職・実習における目標を設定する。
16	オリエンテーション①	残りの学校生活における目標を設定する。
17	オリエンテーション②	勤労学生控除について理解する。
18	インターンシップ実習③	2年次の実習の学びをまとめる。
19	インターンシップ実習④	2年次の実習の学びをまとめる。
20	インターンシップ実習⑤	2年次の実習の学びを発表する。
21	インターンシップ実習⑥	2年次の実習の学びを発表する。
22	資格取得に向けて	登録販売者の従事登録について理解する。
23	社会人としての心構え⑥	社会人としての心構えを学ぶ。
24	社会人としての心構え⑦	社会人としての心構えを学ぶ。
25	社会人としての心構え⑧	社会人としての心構えを学ぶ。
26	社会人としての心構え⑨	社会人としての心構えを学ぶ。
27	社会人としての心構え⑩	社会人としての心構えを学ぶ。
28	社会人としての心構え⑪	社会人としての心構えを学ぶ。
29	社会人としての心構え⑫	社会人としての心構えを学ぶ。
30	まとめ	2年間の振り返りを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康食品・サプリメント知識			
必修選択	選択	(学則表記)	健康食品・サプリメント知識			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	4	60	
使用教材	健康食品の基礎知識		出版社	じほう		

科目の基礎情報②

授業のねらい	健康食品やサプリメントの主要な成分について、特徴や留意点を習得することを授業のねらいとする。				
到達目標	ドラッグストアや薬局で販売されている健康食品やサプリメントについての正しい知識を深め、食生活や薬の服用を含め包括的な視点から、購入者への適切なアドバイスができるようになることを目標とする。				
評価基準	テスト：40% 小テスト：20% 提出物：20% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者試験				
関連科目	栄養学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野直子	実務経験		○	
実務内容	前田外科病院にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を元に、健康食品やサプリメントの主要な成分についての特徴や留意点を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章【健康食品概論Ⅰ】 国民の食生活	国民の食生活の現状を知り、国の取り組みについて学習する。
2	第1章【健康食品概論Ⅱ】 健康食品とは	食品の機能から保健機能食品・特別用途食品等を理解していく。
3	【サプリメント知識】	サプリメントの基本的な知識を知り、科学的根拠と安全性を理解する。
4	第2章【食品の表示Ⅰ】 食品表示	食品表示から食品の情報を読み取ることが出来るようになる。
5	第2章【食品の表示Ⅱ】 食品表示	アレルギー表示・遺伝子組換え食品の表示を理解する。

6	第3章【栄養の知識Ⅰ】 6大栄養素の性質と機能	タンパク質、脂質、糖質の構造と種類を理解する。
7	第3章【栄養の知識Ⅱ】 6大栄養素の性質と機能	ビタミン、ミネラルの働きと食物繊維の分類と種類を理解し、サプリメントについて考える。
8	第3章【栄養の知識Ⅰ】 栄養素の消化・吸収	三大栄養素の消化と吸収、ビタミン、ミネラルの吸収を理解する。
9	第3章【栄養の知識Ⅱ】 栄養素の代謝Ⅰ	エネルギー代謝を理解する。
10	第3章【栄養の知識Ⅲ】 栄養素の代謝Ⅱ	三大栄養素の代謝を理解する。
11	第4章【疾患と栄養Ⅰ】 栄養アセスメント	栄養アセスメントを知り、病気にサプリメントを利用するときの注意点を理解する。
12	第4章【疾患と栄養Ⅱ】 代謝性疾患	代謝性疾患を理解し、サプリメントを考える。
13	第4章【疾患と栄養Ⅲ】 循環器疾患	循環器疾患を理解し、サプリメントを考える。
14	テスト	テストの実施により学習目標のを確認する。
15	第4章【疾患と栄養Ⅳ】 呼吸器疾患	呼吸器疾患を理解し、サプリメントを考える。
16	第4章【疾患と栄養Ⅴ】 肝・胆・膵系疾患	肝・胆・膵系疾患を理解し、サプリメントを考える。
17	第4章【疾患と栄養Ⅵ】 内分泌疾患	内分泌疾患を理解し、サプリメントを考える。
18	第4章【疾患と栄養Ⅶ】 泌尿器疾患	泌尿器疾患を理解し、サプリメントを考える。
19	第4章【疾患と栄養Ⅷ】 血液疾患・悪性腫瘍他	血液疾患・悪性腫瘍・骨疾患・口腔疾患・皮膚疾患を理解し、サプリメントを考える。
20	第5章 【食品と医薬品の相互作用Ⅰ】	薬の吸収と食事の関係性を理解する。

21	第5章 【食品と医薬品の相互作用Ⅱ】	実例から薬と食事の関係性を理解する。
22	第6章【食品の安全と衛生Ⅰ】	食品添加物の意義を理解し、食品について考える。
23	第6章【食品の安全と衛生Ⅱ】	食中毒の知識を深め、発現状況を理解する。
24	第7章【関連法規Ⅰ】	健康食品と法律について学ぶ。
25	第7章【関連法規Ⅱ】	健康食品と法律について学ぶ。
26	【健康食品Ⅰ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。
27	【健康食品Ⅱ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。
28	テスト	テストの実施により学習目標の確認する。
29	【健康食品Ⅲ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。
30	【健康食品Ⅳ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	栄養学		
必修選択	選択	(学則表記)	栄養学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	栄養の基本がわかる図解事典		出版社	成美堂出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	栄養学的視点から健康について考える力を養う。				
到達目標	栄養素のはたらきを理解し、食生活のアドバイスが出来ようになる。				
評価基準	小テスト：20%，レポート：30%，テスト50%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野直子	実務経験	○		
実務内容	前田外科病院にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を元に、栄養学的視点から健康について考える力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	栄養新事情	日本人の健康状態を把握し、それに関連する栄養素の摂取状況を理解する。
2	栄養学入門Ⅰ	栄養素の種類とはたらき（栄養）の大きな概要を理解する。
3	栄養学入門Ⅱ	食事摂取基準の考え方を理解し、食生活指針から献立作成の基礎を学ぶ。
4	活動と栄養	基礎代謝を理解し、エネルギー量の算出ができる。
5	年代別栄養Ⅰ	妊娠期に必要な栄養素、乳幼児期の発達に応じた栄養を理解する。
6	年代別栄養Ⅱ	学童期～高齢者における各ライフステージに必要な栄養を理解する。
7	栄養素Ⅰ	炭水化物の概要を理解し、過剰時の代謝について学ぶ。
8	栄養素Ⅱ	脂肪の概要を理解し、脂肪酸の分類やはたらきについて理解を深める。

9	栄養素Ⅲ	たんぱく質の概要を理解し、たんぱく質の評価指標について理解を深める。
10	栄養素Ⅳ	脂溶性ビタミンの生体内でのはたらきを理解する。
11	栄養素Ⅴ	水溶性ビタミンの生体内でのはたらきを理解する。
12	栄養素Ⅵ	ミネラルの生体内でのはたらきを理解する。
13	栄養素Ⅶ	食物繊維のはたらきと腸における便の形成を理解する。
14	テスト（前期）	テストを実施する。
15	授業内容確認	前期授業の振り返りを行い、記憶の定着を確認し、授業の学習内容を確認する。
16	代謝Ⅰ	食欲と消化のしくみを理解する。
17	代謝Ⅱ	小腸での栄養素の吸収と糖質の代謝について理解する。
18	代謝Ⅲ	脂質、タンパク質の代謝について理解する。
19	症例別栄養Ⅰ	肥満、糖尿病の病態を把握し栄養学的視点から予防対策を考える。
20	症例別栄養Ⅱ	がん、動脈硬化肥満の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
21	症例別栄養Ⅲ	脂質異常症、高血圧の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
22	症例別栄養Ⅳ	脳卒中、虚血性心疾患の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
23	症例別栄養Ⅴ	肝機能低下、胃、十二指腸潰瘍の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
24	症例別栄養Ⅵ	胆石、胆のう炎、腎機能低下の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
25	症例別栄養Ⅶ	高尿酸血症、骨粗鬆症の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
26	症例別栄養Ⅷ	脳血管性認知症、摂食障害の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
27	症例別栄養Ⅸ	便秘、下痢、風邪の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
28	症例別栄養Ⅹ	花粉症、眼精疲労、疲労の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
29	テスト（後期）	テストを実施する。
30	授業内容確認	テストの解説と年間の授業内容について振り返る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療品安全対策と副作用			
必修選択	選択	(学則表記)	医療品安全対策と副作用			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト 登録販売者試験 受験対策重要ワード集	出版社	日本薬業研修センター			

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療品の安全対策や医薬品の副作用（登録販売者試験第5章範囲）について理解する				
到達目標	登録販売者試験 第5章7割以上取得（20問中14点以上）レベルの理解をする。				
評価基準	模擬試験：50% 小テスト：30% 提出物・授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	資格試験対策Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川達也	実務経験	○		
実務内容	人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務した実務経験を元に、医療品の安全対策や医薬品の副作用を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医薬品の適正使用情報	添付文書の読み方① 過去問練習・解説
2	医薬品の適正使用情報	添付文書の読み方②、製品表示の読み方 過去問練習・解説
3	医薬品の適正使用情報	安全性情報など、その他の情報、購入者等に対する情報提供への活用 過去問練習・解説

4	医薬品の安全対策	医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置、医薬品による副作用等が疑われる場合の報告の仕方 過去問練習・解説
5	医薬品の副作用等による健康被害の救済	医薬品副作用被害救済制度等への案内、窓口紹介 過去問練習・解説
6	一般用医薬品に関する主な安全対策、医薬品の適正使用のための啓発活動	一般用医薬品に関する主な安全対策、医薬品の適正使用のための啓発活動 過去問練習・解説
7	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	精神神経系に作用する薬① 過去問練習・解説
8	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	精神神経系に作用する薬②、呼吸器系に作用する薬 過去問練習・解説
9	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	胃腸に作用する薬 過去問練習・解説
10	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	循環器や血液に作用する薬 過去問練習・解説
11	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	排泄に関わる部位に作用する薬、アレルギー用薬、鼻に用いる薬、眼科用薬 過去問練習・解説
12	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	漢方処方製剤・生薬製剤 過去問練習・解説
13	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	皮膚に用いる薬 過去問練習・解説
14	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	歯や口中に用いる薬、禁煙補助剤、滋養強壮保健薬 過去問練習・解説
15	主な使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群	公衆衛生用薬、一般用検査薬 過去問練習・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	公衆衛生学		
必修選択	選択	(学則表記)	公衆衛生学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	公衆衛生学		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として地域保健活動を展開する上で、基礎となる公衆衛生の理念・考え方・活動について学び、地域保健の構成員であることを自覚し登録販売者として、それに寄与することができる。				
到達目標	地域保健を理解し、登録販売者の役割を認識することが出来る。				
評価基準	課題・小テスト40%、テスト60%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬学概論・薬事関連法規など				
備考	原則、この授業は対面形式で実施する。				
担当教員	石川達也	実務経験		○	
実務内容	人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務した実務経験を元に、登録販売者として地域保健活動を展開する上で、基礎となる公衆衛生の理念・考え方・活動についてを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	公衆衛生の概念を理解し、その必要性を理解する
2	第1章 健康と公衆衛生	公衆衛生・予防医学の歴史から健康の概念の変革を学ぶ
3	第2章 環境と健康Ⅰ	環境汚染が与える健康への影響を知り、環境保全のありかたを理解する
4	第2章 環境と健康Ⅱ	公害への理解を深め、その対策を理解する
5	第3章 保健統計Ⅰ	保健統計の基礎資料である人口の把握をおこない、少子高齢化を理解する
6	第3章 保健統計Ⅱ	人口動態統計から生命表を知り、健康寿命について理解を深める
7	第3章 保健統計Ⅲ	傷病統計から日本で発生している疾患について理解を深める
8	第4章 疫学と疾病Ⅰ	疫学概念を学び、その手法と関連・影響要因を理解する

9	第4章 疫学と疾病Ⅱ	科学的根拠から実践されるEBMについて、その信頼性の根幹を理解する
10	第5章 生活習慣と健康Ⅰ	生活習慣病への理解を深め、日本における生活習慣の現状を読み解く
11	第5章 生活習慣と健康Ⅱ	生活習慣病への理解を深め、日本における生活習慣の現状を読み解く
12	第6章 主要疾患Ⅰ	がん統計の理解とその影響因子を理解する
13	第6章 主要疾患Ⅱ	循環器疾患、代謝疾患を公衆衛生的視点から理解を深める
14	定期テスト	前期の履修内容を客観的に評価するためテストを実施する
15	第6章 主要疾患Ⅲ	骨・関節疾患、その他の疾患を公衆衛生的視点から理解を深める
16	第7章 感染症とその予防	感染症への理解を深め、その公衆衛生の遍歴と予防方法を学ぶ
17	第8章 精神疾患	精神疾患への理解を深め、精神保健福祉対策を学ぶ
18	第9章 社会保障と行政	社会保障制度への理解を深め、高齢化率との関連を学ぶ
19	第10章 医療制度	医療保険制度について理解を深め、医療費との関連を学ぶ
20	第11章 福祉制度	社会福祉制度の関連法規等から社会福祉の基礎的な考え方を理解する
21	第12章 地域保健Ⅰ	地域保健への理解を深め、その活動を理解する
22	第12章 地域保健Ⅱ	地域保健の基本指針を学ぶ
23	第13章 母子保健Ⅰ	母子保健のありかたを関連法規から学ぶ
24	第13章 母子保健Ⅱ	母子保健に関する対策を把握し、少子化について理解を深める
25	第14章 成人保健	生活習慣病を統計学的に理解し、環境要因を考える
26	第15章 高齢者保健と介護保険制度	高齢社会の問題を把握し、健康寿命について考える
27	第16章 産業保健	産業保健の過去から現代への変化を把握し、関連する対策等の理解を深める
28	第17章 学校保健	教育現場における保健教育、学校保健安全対策について学ぶ
29	定期テスト	履修内容を客観的に評価するためテストを実施する
30	第18章 国際保健	国際的な視点から保険問題を捉え、国際間協力について学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	CRC		
必修選択	選択	(学則表記)	CRC		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	1
使用教材	スライド教材 (ppt資料)			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	新しいくすりがどのようにして世の中に出るか、またその際にどのようなコンプライアンスが求められるかを学び、信頼されるくすりの専門家としての教養、知識を高める。				
到達目標	CRC（治験コーディネーター）として臨床現場で活躍できる人材の育成、および臨床知識が豊富で消費者から信頼される登録販売者の育成を目標とする。				
評価基準	レポート70%、確認テスト30%（※オンデマンドの場合）				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、CRC（治験コーディネーター）				
関連科目	薬事関係法規、基礎医薬品、薬理学、薬学概論、資格試験対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式もしくはオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	本間篤	実務経験	○		
実務内容	医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務した実務経験を元に、信頼されるくすりの専門家としての教養、知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	I：くすりの歴史と特性	くすりの発見と進化の歴史
2	I：くすりの歴史と特性	くすりの発見と進化の歴史つづき、くすりに求められる性質
3	I：くすりの歴史と特性	くすりの投与経路と体内動態
4	II：くすりの業界と動向	世界における製薬業界の動向
5	II：くすりの業界と動向	日本における製薬業界の動向
6	II：くすりの業界と動向	その他の業界の動向（薬局および医薬品販売業）
7	II：くすりの業界と動向	その他の業界の動向（治験業界）
8	III 新しいくすりができるまで	新しいくすりをつくる理由

9	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発①基礎研究
10	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発②非臨床試験：前半
11	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発②非臨床試験：後半
12	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発③臨床試験：前半
13	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発③臨床試験：後半
14	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発④製造販売・承認申請
15	Ⅲ 新しくすりができるまで	新薬の開発⑤倫理・関係法規・その他
16	Ⅳ 治験に関わる組織と業務	治験に関わる人と組織：前半（治験依頼者と治験実施者）
17	Ⅳ 治験に関わる組織と業務	治験に関わる人と組織：後半（治験実施者つづき）
18	Ⅳ 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 1：（治験の流れにおけるCRCの業務等）
19	Ⅳ 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 2：（CRCおよび治験依頼者の業務等）
20	Ⅳ 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 3：（治験依頼者の業務、守秘義務等）
21	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	医療機関の種類
22	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	医療機関で働く人々、検査とその種類
23	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	検査とその種類 つづき
24	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 1：肝臓、腎臓
25	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 2：心臓、膵臓・糖代謝、脂質代謝関連
26	Ⅴ CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 3：その他の検査項目
27	Ⅵ くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 1
28	Ⅵ くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 2
29	Ⅵ くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 3
30	Ⅵ くすりの現在と未来	薬害から人々を守る、医薬品の専門家に必要な倫理観

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	資格試験対策Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	資格試験対策Ⅰ		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	5
時間数					75
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト (上)	出版社	日本薬業研修センター		
	登録販売者試験 受験対策重要ワード集				

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験の合格を目指すと同時に、信頼される医薬品の専門家となるための知識習得することができる。				
到達目標	教科書を使用せずとも登録販売者試験の過去問題が解けるレベルを目指す。 登録販売者試験の合格基準点「全体の7割以上の得点」を取れるレベルを目指す。				
評価基準	模擬試験：50% 単元ごとの確認テスト：30% 提出物・授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、動物用医薬品登録販売者				
関連科目	薬理学、基礎医薬品、解剖生理学、生薬漢方学、薬事関係法規、薬学概論（1年）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本間篤、石川達也	実務経験	○		
実務内容	<p>(本間)医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年勤務、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務</p> <p>(石川)人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務</p> <p>それぞれ勤務した実務経験を元に、信頼される医薬品の専門家となるための知識を教授する。</p>				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	医薬品概論,医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因
2	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識 第2章 人体の働きと医薬品	適切な医薬品選択と受診勧奨、薬害の歴史,人体の構造と働き
3	第2章 人体の働きと医薬品	人体の構造と働き

4	第2章 人体の働きと医薬品	人体の構造と働き,薬が働く仕組み
5	第2章 人体の働きと医薬品	薬が働く仕組み,症状からみた主な副作用
6	第4章 薬事関係法規・制度	法律の目的,医薬品の定義と範囲
7	第4章 薬事関係法規・制度	容器・外箱等への記載事項、添付文書等への記載事項,医薬部外品、化粧品、保健機能食品等
8	第4章 薬事関係法規・制度	許可の種類と許可行為の範囲,リスク区分に応じた販売従事者、情報提供及び陳列等
9	第4章 薬事関係法規・制度	適正な販売広告
10	第4章 薬事関係法規・制度 第5章 医薬品の適正使用・安全対策	行政庁の監視指導、苦情相談窓口,医薬品の適正使用情報
11	第5章 医薬品の適正使用・安全対策	医薬品の安全対策,医薬品の副作用等による健康被害の救済
12	第5章 医薬品の適正使用・安全対策	一般用医薬品に関する主な安全対策,医薬品の適正使用のための啓発活動
13	試験対策①	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り
14	試験対策②	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り
15	試験対策③	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	資格試験対策Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	資格試験対策Ⅱ		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	5
時間数					75
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト (下)	出版社	日本薬業研修センター		
	登録販売者試験 受験対策重要ワード集				

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験の合格を目指すと同時に、信頼される医薬品の専門家となるための知識習得することができる。				
到達目標	教科書を使用せずとも登録販売者試験の過去問題が解けるレベルを目指す。 登録販売者試験の合格基準点「全体の7割以上の得点」を取れるレベルを目指す。				
評価基準	模擬試験：50% 単元ごとの確認テスト：30% 提出物・授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、動物用医薬品登録販売者				
関連科目	薬理学、基礎医薬品、解剖生理学、生薬漢方学、薬事関係法規、薬学概論（1年）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本間篤、石川達也	実務経験	○		
実務内容	<p>(本間)医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年勤務、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務</p> <p>(石川)人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務</p> <p>それぞれ勤務した実務経験を元に、信頼される医薬品の専門家となるための知識を教授する。</p>				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第3章 主な医薬品とその作用	精神神経系に作用する薬
2	第3章 主な医薬品とその作用	呼吸器系に作用する薬、胃腸に作用する薬
3	第3章 主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬
4	第3章 主な医薬品とその作用	心臓などの器官や血液に作用する薬
5	第3章 主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬、婦人薬
6	第3章 主な医薬品とその作用	内服アレルギー用薬、鼻に用いる薬
7	第3章 主な医薬品とその作用	鼻に用いる薬

8	第3章 主な医薬品とその作用	眼科用薬、皮膚に用いる薬
9	第3章 主な医薬品とその作用	皮膚に用いる薬
10	第3章 主な医薬品とその作用	歯や口内に用いる薬
11	第3章 主な医薬品とその作用	禁煙補助薬、滋養強壮保健薬
12	第3章 主な医薬品とその作用	漢方処方製剤・生薬製剤
13	第3章 主な医薬品とその作用	公衆衛生用薬、一般用検査薬
14	試験対策①	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り
15	試験対策②	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビューティーケア		
必修選択	選択	(学則表記)	ビューティーケア		
開講					
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	1
時間数					45
使用教材	日本化粧品検定2級3級対策テキストコスメの教科書		出版社	主婦の友	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・美容を語れる人になることを最終目標とする。 ・現場レベルで活かせる美容皮膚科学・メイクアップ・生活習慣・美容に関する知識を得る。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現場レベルで活かせるような、美容知識を自身の言葉で説明ができる。 ・お客様に合わせた化粧品や化粧の仕方など知識・理論を元に説明できる。 ・日本化粧品検定3級合格(任意) 				
評価基準	テスト：40% 小テスト：40% 提出物：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	日本化粧品検定1～3級				
関連科目					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・3級検定はwebから受験可能なため、カリキュラム終了後受験可能(無料)。 ・2級検定希望者は、協会が定める開催日程・場所でカリキュラム終了後受験可能(有料)。 				
担当教員	庭山由紀子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・目的、到達目標の説明、美容部員について知る
2	PART1. まちがえがちな美容知識を チェック	クレンジングの基本～美容液について知る(P22～29)
3	PART1. まちがえがちな美容知識を チェック	勘違いしがちな肌悩みの対処法～日焼け止めの基本(P30～37)

4	PART1. まちがえがちな美容知識を チェック	メイクアップの基本～まつ毛ケアのための基礎知識(P38～42)
5	PART1. まちがえがちな美容知識を チェック	ボディケアの基本を学ぼう～手や爪の特徴を学ぼう(P43～48)
6	PART2. 皮膚・肌について知ろう	1.皮膚の構造～2.皮膚のしくみと働き(表皮の構造としくみ～表皮のターンオーバー) (P52～69)
7	PART2. 皮膚・肌について知ろう	2.皮膚のしくみと働き(基底層について～皮膚の付属器官) (P52～69)
8	PART3. 肌の手入れと正しい知識	1.肌タイプと見分け方～2.肌悩みの原因とお手入れ(乾燥～ニキビ[尋常性ざ瘡]) (P72～81)
9	PART3. 肌の手入れと正しい知識	2.肌悩みの原因とお手入れ(毛穴～しわ・たるみ) (P82～93)
10	PART3. 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(一般的なメイクアップの手順～まつ毛とマスカラではっきり目元) (P94～101)
11	PART3. 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(チークの基礎知識～口紅の正しい塗り方と形)～4.肌悩みに応じた化粧品の使い方(P102～108)
12	PART4. 美肌・美ボディ生活を送るには	1.肌を劣化させるさまざまな要因～2.紫外線が肌に与える影響 (P112～125)
13	PART4. 美肌・美ボディ生活を送るには	3.効果的なマッサージの必要性和方法～4.美しい肌をつくる生活習慣(P126～139)
14	テスト	テストを実施
15	総まとめ	テストの振り返り・検定について・総まとめ(スキンケア～フルメイクまで復習)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	店舗マネジメント			
必修選択	選択	(学則表記)	店舗マネジメント			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30	
使用教材	店長の一流、二流、三流		出版社	明日香出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	本科目を通して人を動かし、ついてきてもらうための必要なスキルを身につけ、店舗においてどのスタッフからも頼られる登録販売者を社会に送り出すことが授業の狙いである。				
到達目標	店舗の即戦力、すなわち責任者として他のパートアルバイトをマネジメントする能力を身につける。				
評価基準	テスト70%(2回)、提出物30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本間篤	実務経験		○	
実務内容	医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務した実務経験を元に、人を動かし、ついてきてもらうための必要なスキルを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・目的、到達目標の説明 実習体験をもとに、いくつかの項目でグループワークを実施
2	P20～P35	①やる気アップ②リーダーシップ③任せ方④褒め方
3	P36～P53	①学生アルバイト②タイプを知る③個別ミーティング
4	P54～P69	①急な欠勤対応②長期休暇③朝礼④全体ミーティング
5	P70～P81	①クリンネス②店外の状況チェック③クレーム対応
6	P82～P95	①報告連絡相談②万引き③内引き防止 中間テスト

7	P96～P107	①売上づくり②販売データ③業績不振
8	P108～P119	①リピート客の作り方②値下げ③開業記念日
9	P120～P133	①POP②SNS③お客様アンケート
10	P134～P149	①スタッフ募集②求人広告③採用基準④採用面接
11	P150～P167	①面接での質問②新人受け入れ③外国人採用④退職者への対応
12	P168～P179	①仕事の教え方②OJT③ゆとり・さとり
13	P180～P193	①シニアスタッフ②販売不振のスタッフ③相談にのる
14	P194～P209	①締め切り②自分の仕事③残業④休日 最終テスト
15	P210～P218	①外見②スキルアップ③スタンス

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ポップアート			
必修選択	選択	(学則表記)	ポップアート			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30	
使用教材	「学科テキスト」1版13刷 「実技ワークブック」1版16刷 POPマーカーセット		出版社	公開経営指導協会		

科目の基礎情報②

授業のねらい	見やすいPOP広告を作成する技術を身につける。				
到達目標	POP技能審査合格水準に達することができる。				
評価基準	テスト60% 提出物30% 授業態度10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	POP広告クリエイター技能審査試験				
関連科目	ディスプレイ・研究発表				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳敦子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実技) 各ゴシック/基本線 角ゴシック/基本書体 学科) 1章	実技) マーカーについて・基本ストローク・カタカナ・英数字 角ゴシックを描くための基本線P4-11 丸ラインの練習・メリハリのつけ方P24-29 学科) 販売促進について
2	実技) 角ゴシック/基本書体 学科) 2章	実技) ひらがな・漢字 エレメント・筆法P12-23 学科) POP広告について
3	実技) 明朝体/漢字・丸ゴシック 学科) 3章	実技) 丸ゴシック体 P30-33 実技) 学科テキスト3章 学科) POP広告の作り方
4	実技) POP作成 学科) 4章	実技) POP作成 学科) POP広告の種類

5	実技) 装飾文字 学科) 5 章	実技) 袋文字・カゲ文字 学科) P O P 作成用具と用紙 実技) 装飾文字についての説明 P 3 4 - 3 6 あたりの取り方
6	実技) 装飾文字 学科) 6 章	実技) カゲ文字・カサネ文字 学科) 色彩と配色 実技) あたりの取り方 P 3 6 - 3 7
7	実技) 罫線・イラスト 学科) 7 章	実技) 罫線・イラスト・アイキャッチャー 学科) 店舗陳列の基本 実技) それぞれの効果 P 5 7 - 6 4
8	実技) レイアウト 学科) 8 章	実技) [いい音実感]模写 学科) 情報バリアフリー 実技) 手順・配置・配色 あたりを指示しながら下書き (作成へ) P 3 8
9	P O P 制作 学科 (用語)	ショーカード 実技) 良い作品例を見せると効果的 P 4 1 学科) 各自でプリント 記入 ⇒ 解説 P 7 7、7 8
10	P O P 制作 学科 (用語)	プライスカード 実技) P 4 4 学科) P 7 9、8 0
11	P O P 制作 学科 (用語)	ポスター 実技) 4 7 学科) P 8 1、8 2
12	テスト 検定演習 学科 (用語)	テスト ゴシック: 装飾文字 学科) P 8 3、8 4
13	検定演習 学科 (用語)	ショーカード 学科) P 8 5、8 6
14	検定演習 学科 (用語)	プライスカード 学科) P 8 7、8 8
15	検定演習 学科 (用語)	ポスター 学科) P 8 9、9 0

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ディスプレイ			
必修選択	選択	(学則表記)	ディスプレイ			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30	
使用教材	人が集まる！売れる！売り場づくり40の法則		出版社	大和書房		

科目の基礎情報②

授業のねらい	ドラッグストアや薬局などの現場で働く際に必要な商品陳列に対する考え方や、店のコンセプト演出方法、陳列に対する仕掛けなどディスプレイの知識・技術を身につけることがねらいである。				
到達目標	卒業制作において、自分たちで商品ディスプレイを考え作成することができるレベルを目指す。				
評価基準	テスト50% 制作物30% 提出物・授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	POP広告クリエイター技能審査試験・日商販売士3級				
関連科目	ポップアート・店舗マネジメント・研究発表				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川達也	実務経験		○	
実務内容	人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務した実務経験を元に、ドラッグストアや薬局などの現場で働く際に必要なディスプレイの知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 売り場づくりが大切な理由	売り場に対する基本的な考え方や捉え方
2	第2章 これだけは知っておきたいVMDの基本①	ビジュアルマーチャンダイジングの捉え方と表現方法
3	第2章 これだけは知っておきたいVMDの基本②	商品陳列に対する考え方
4	第2章 これだけは知っておきたいVMDの基本③	商品陳列の考え方と陳列技術の基本
5	第4章 魅力的な売り場をつくる習慣①	色と照明

6	第2章 これだけは知っておきたいVMD の基本③	売り場や陳列に対する仕掛け
7	第3章 VMDで売り場を改善する①	売り場や陳列に対する仕掛け
8	第3章 VMDで売り場を改善する②	商品や店のコンセプト演出方法
9	第5章 売り場に立つスタッフが心がけ たいこと	商品や店のコンセプト演出方法
10	流通のしくみ	商品の流通、在庫・売上管理
11	商品ディスプレイ実習 ①化粧品部門	空箱等を使って商品ディスプレイPOP作成を行う
12	商品ディスプレイ実習 ②サプリメント部門	空箱等を使って商品ディスプレイPOP作成を行う
13	商品ディスプレイ実習 ③医薬品部門	空箱等を使って商品ディスプレイPOP作成を行う
14	定期試験	テスト
15	卒業制作	空箱等を使って商品ディスプレイを行う。 関連POPも作成し、販売強化につながる作品を作る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	研究発表		
必修選択	選択	(学則表記)	研究発表		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品販売の現場における問題に気づき、その原因と解決策を考え、新たな提案をグループワーク（新規起業提案）および個人課題（論文作成）の形で発表し、問題解決力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
到達目標	①商品の特徴を理解し、その良さを消費者へ伝えることができる。 ②グループ作業を通じて、異なる仲間と同じ目標を達成することができる。 ③個人作業を通じて、自分の考えを文章にまとめ、他の人へわかりやすく伝えることができる。				
評価基準	グループワークへの取り組み：40%、個人作業における取り組み：40%、その他：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	ディスプレイ（2年後期）				
備考	原則、この授業は対面形式にて実施する。				
担当教員	本間篤、石川達也	実務経験	○		
実務内容	(本間)医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年勤務、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務 (石川)人体の構造と疾患の知識を使い、薬の専門家として薬店に11年勤務 それぞれ勤務した実務経験を元に、医薬品販売の現場における問題解決力およびプレゼンテーション能力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	卒業研究イントロダクション	卒業研究の意義について、グループおよび個人での取り組み内容の確認
2	卒業研究イントロダクション	卒業研究内容に関するグループ決め、これまでの卒業論文の紹介
3	卒業研究イントロダクション	マーケティングの基礎知識の学習および企業研究・発表

4	卒業研究イントロダクション	マーケティングの基礎知識の学習および企業研究・発表
5	卒業研究イントロダクション	マーケティングの基礎知識の学習および企業研究・発表
6	グループワークおよび個人課題	グループワーク：起業概要検討およびスライド資料の作成 個人課題：論文作成
7	グループワークおよび個人課題	グループワーク：起業概要検討およびスライド資料の作成 個人課題：論文作成
8	グループワークおよび個人課題	グループワーク：起業概要検討およびスライド資料の作成 個人課題：論文作成
9	グループワークおよび個人課題	グループワーク：起業概要検討およびスライド資料の作成 個人課題：論文作成
10	グループワークおよび個人課題	グループワーク：起業概要検討およびスライド資料の作成 個人課題：論文作成
11	研究発表会に向けての取り組み	グループワークおよび個人課題の発表練習
12	研究発表会に向けての取り組み	グループワークおよび個人課題の発表練習
13	研究発表会に向けての取り組み	グループワークおよび個人課題の発表練習
14	研究発表会および振り返り	研究発表会の実施および振り返り
15	研究発表会および振り返り	研究発表会の実施および振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	くすりと疾患		
必修選択	選択	(学則表記)	くすりと疾患		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	「総合診療医が教える よくある気になるその症状」		出版社	じほう	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品販売の現場において、登録販売者には生活者からの相談に対し、適切なアドバイス（どのOTCで対応すべきか、また受診を勧奨すべきか等）を行う実践力が求められる。本授業を通じて、医薬品販売の現場で想定されるさまざまなケースでの対応の仕方を学び、医薬品販売の即戦力として現場で求められるスキルを身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品販売の現場で特に生活者から質問される「かぜ様症状」、「痛み」、「消化器症状」、「めまいや倦怠感」以上の4つに関して、どのようなアドバイスが出来る。 ・ お客様の症状、疾患などの訴えから、お客様に勧める医薬品の選択、受診推奨が出来る。 				
評価基準	ミニテスト（6回）40%、理解度テスト（2回）40% 授業に対する姿勢20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者・成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者、治験コーディネーター				
関連科目	解剖生理学、薬理学、基礎医薬品、薬学概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本間篤	実務経験		○	
実務内容	医療法人春明会みくに病院(2001年～) 薬剤師として1年、株式会社ダイエー大宮店および南越谷店(2002年～) 薬剤師として5年勤務した実務経験を元に、医薬品販売の即戦力として現場で求められるスキルを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	登録販売者が疾患について学ぶ意義とは、SOAP形式を用いた患者問診の仕方 など
2	Step1-1 ①典型的かぜ型	かぜの定義、ウイルス感染と細菌感染の違い、典型的かぜ型の定義 など
3	Step1-2 ②鼻症状メイン型	細菌性副鼻腔炎の特徴、SnNoutとSpPin、2峰性による鑑別 など
4	Step1-3 ③喉症状メイン型	嚥下時痛の確認。Centorの基準、細菌性・ウイルス性の判断のコツ、最悪のシナリオとなる3疾患
5	①～③のタイプとOTC	①～③の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
6	Step1-4 ④咳症状メイン型①	Diehrの基準、肺炎を強く疑う病歴（悪寒戦慄を伴う発熱と咳、2峰性の有無） など
7	Step1-5 ⑤局所症状不明瞭・高熱のみ型	初期に局所症状が出にくい6つの細菌感染症（尿路感染症、胆道系感染症、血管内感染症、蜂窩織炎、歯髄炎、肛門周囲膿瘍） など

8	Step1-6 ⑥咳症状メイン型②	PICとその典型的な経過、慢性咳嗽とその原因、結核 など
9	④～⑥のタイプとOTC	④～⑥の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
10	知っておきたいかぜのQ&A	1 かぜについての基本情報 （かぜの原因ウイルスとその基本的特徴、感染経路など）
11	知っておきたいかぜのQ&A	2 かぜの予防には何が効果的？ （かぜ薬の使用目的、正しい手洗いとその方法、マスクの効果、その他かぜの予防対策など）
12	知っておきたいかぜのQ&A	3 かぜの初期症状がみられたら、4 かぜがひどくなったら （かぜの際の対応の仕方、症状出現時の注意事項、重症化で引き起こされる病気、インフルエンザとの違い）
13	知っておきたいかぜのQ&A	5 かぜの治りかけ、こじらせない方法は？、6 その他の豆知識 （免疫力について、かぜをひかない人とひく人、その他かぜ予防に効果的な方法）
14	第1回～第13回の総復習	これまでの内容の総復習、理解度テストの実施
15	前期のまとめ	理解度テストの振り返りと解説
16	Step2-1 ⑦頭痛①	注目すべき3C、症状を聞くコツ「OPQRST」、POUNding criteria、緊張性頭痛の診断 など
17	Step2-2 ⑧頭痛②	必ず確認する3項目、クモ膜下取穴のための病歴聴取、薬物乱用頭痛が疑われる病歴 など
18	Step2-3 ⑨腰痛	問診における3つの重要な軸、緊急・準緊急の腰痛とそのレッドフラッグサイン など
19	Step2-4 ⑩関節痛	関節痛で注目すべき「OPQRST」、慢性関節痛患者での注意点 など
20	⑦～⑩のタイプとOTC	⑦～⑩の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴 など
21	Step3-1 ⑪下痢	細菌性胃腸炎を疑う所見、起立試験による脱水の評価、ウイルス性胃腸炎の定義 など
22	Step3-2 ⑫吐き気	吐き気をきたす疾患、ウイルス性胃腸炎の自然経過、腹痛や下痢の有無と程度の確認 など
23	Step3-3 ⑬腹痛	過敏性腸症候群、腹痛の突然の病歴とその背後にある3因子 など
24	⑪～⑬のタイプとOTC	⑪～⑬の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
25	Step4-1 ⑭めまい	めまいの原因と分類、注目すべき「OPQRST」 など
26	Step4-2 ⑮倦怠感	倦怠感の分類、うつ病の診断基準 など
27	⑭～⑮のタイプとOTC	⑭～⑮の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
28	主なOTC薬の成分	かぜ、痛み、胃のむかつき、下痢などに対して効能・効果をもつ一般用医薬品成分とその特徴
29	第16回～第28回の総復習	これまでの内容の総復習、理解度テストの実施
30	後期のまとめ	理解度テストの振り返りと解説